



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「おっさんたちの旅」 鎌倉①

1970年代に、テレビ・ドラマ「俺たちの旅」が放映されたのをご存知だろうか。

続編として、1985年、1995年、2003年にも放映されたので、ご記憶の方もいるかもしれない。たぶん、続編は余り記憶に残らなかったかもしれない。このドラマは「青春ドラマ」なので、主役たちが社会人になってしまった続編は、若い人にとっておっさんの追憶ドラマにしすぎない。だから記憶に残らなかったであろう。

さて、おっさんたるわが輩のために、少しお時間を頂きたい。まずは、本編の物語を辿ってみよう。

中村雅俊（カースケ）：

三流大学生のカースケは、就職活動もせずに、のんきに学生生活をおくっていた。

続編では、妻の実家の会社の社長。

秋野太作（グズ六）：

カースケの小学校の先輩。早稲田大学卒業、就職するも上司を殴って退職。

続編では、小さな人材派遣会社経営。

田中健（オメダ）：

カースケの同級生。真面目だが、気弱な“ダメオ”。（オメダの逆）

続編では、鳥取県米子市の市長。

この三人が青春を織りなした舞台がアパート「たちばな荘」（吉祥寺）である。カースケは下駄ばき、ジーパン姿がトレード・マークであった。（わが輩も阿佐ヶ谷を下駄ばきでかつ歩していた）その他、鎌倉の極楽寺と海岸（鎌倉高校前駅）も撮影現場であった。

この度、この三人組に擬えたというわけではないが、われら三人同窓生（哲学専攻）が鎌倉に集結した。その三人とは以下の者たちである。

カースケB：

就職活動もしないで、のんきに学生生活をおくり、あげくにインド放浪を繰り返した。就職するも人間的成長ができないと退職、そして放浪。

続編では、極小の旅行会社代表。

グズ六B：

有名高出身ながら、掃きだめの哲学科に流れ着いた。三島由紀夫の「盾の会」関与の右

派思想家。「東京湾に沈められた」という噂があったが、近年オメダBが生存を確認した。涙もろい豪士風男性。

続編では、なぜか鎌倉の豪邸に住んでいる。

オメダB：

登山家で人情家。同窓会幹事を仕切るなど世話好き。大学院でカントを専攻、大学講師（ドイツ語）を勤めあげた。真面目。

続編では、インド人（日本企業社員）に日本語を教えている。

ドラマの舞台はアパート「たちばな荘」だが、わが輩の舞台は阿佐ヶ谷の「なかがわマンション」（木造二階建て）であった。東大、一橋、中央、早稲田などの学生が下宿していた。部屋に鍵がなく、誰でも自由に出入りできた。そこにグズ六Bも泊まりにきていた。優しい大家さんから朝食を食べさせてもらっていた。わが輩の人情というのか人格形成に大きく影響した舞台であった。

オメダBは大きな酒屋の息子で、別棟の部屋に住み、結構恵まれた生活をしていた。グズ六Bはよく泊りに来て、ただ酒を飲んでいて、オメダBが本当に真面目で人情家だと思ったことが一度だけある。その一度を全うしたことに敬意を表したい。

そもそも、なぜわれら三人組が集まることになったのか。

終活をしているとグズ六Bの古ぼけた手紙がでてきた。卒業直後にわが家（大阪）にふらりとやってきた。グズ六Bは卒業するでもなく、就職するでもなく、生き方に迷っていた。同じく迷い道の大魔王はどうしているか、と探りたかったのであろう。わが家に泊まって帰っていったが、そのときの礼状がでてきた。これを届けようとオメダBに発案したのが契機となり鎌倉詣でとなった。それだけではノスタルジアにすぎない。それは一つの口実にすぎず、次の本意があった。

1. 東京湾に沈むことなく、豪邸に住んでいるって本当かな？
2. 恩師哲学者宅跡（極楽寺）を訪ねる。恩師の哲学を再考する。
3. 鎌倉大仏にあるジャヤワルデネ大統領の碑。なぜ、ここにあるの？
4. 日蓮の事蹟巡り。わが輩のイメージ「日蓮」をぶち壊す。

「俺たちの旅」は、わが輩の「おっさんたちの旅」となって、まだまだ続く。否これから人生の旅が始まるのである。